

鎮守の森を守るため、周辺の里地里山の保全と文化継承の活動

17. 富士権現山山麓 【茨城県桜川市】

範	園	五所駒瀧神社裏山(権現山)および山麓部周辺の田畑	
所	在	地 茨城県桜川市真壁町山尾	
生	物	地 理 区 分 コナラ林(東日本)	
環	境	要 素 二次林( ), 水田、小川・水路、社寺林	
自然条件	地	形	関東平野、筑波連山西側に位置する権現山(398m)の山頂～山麓部。
	植生・生物等		山は混生林が多い。 神社境内には、樹齢 500 年近い杉や榎(さわら)、原種の梨や柿の大木、北限とされる楠や真榊等が茂る。 イモリやホタルが生息(湿地)
			 <p>撮影時期：H12年9月 鎮守の森とその周辺の里地、里山。</p>
社会条件	人口(市町村)	45,698人(農家率 21.8%、副業的兼業農家が多い) 桜川市のデータ(H22年)	
	土地 利 用	市総面積の 29.8%が田畑、41.5%が山林である。 桜川市のデータ(H22年) 対象地区は、谷津田で沢から水を引いている。	
	歴 史・文 化	権現山は、約千年前の五所駒瀧神社創建以来、真壁城主の鎮守の森として地域のシンボルとされてきた。「かっただて祭り」は、神社の氏子たちが松明(松の根を使用)を持って権現山の山頂に登り、神火を山の神に奉獻する祭りであり、夏の終わりを告げる地域の風物詩となっている。	
法 指 定、行 政 による 評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	該当なし	
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	「いばらき緑の文化賞」受賞	

富士権現山山麓				
取組主体	タイプ	NPO企業等:NPO・企業・学校等地元の外からの参加者が中心となった取組		
	主な主体	名称	概要	
		千年の森の会	森林づくりボランティア活動団体	
経緯	<p>1991年に、五所駒瀧神社の宮司が中心となって、地域の鎮守の森の環境保全に取り組むボランティア活動を発足。以来、神社裏山の森とふもとの田畑をフィールドに地道な活動を続けている。年配者や女性の参加者も増え、楽しみながら活動が行われている。</p> <p>会の代表者は、地元小学校での総合学習講師も務める。</p>			
支援措置	平成20年度茨城県元気な森林づくり活動支援事業(権現山登山道整備)			
取組の目的・目標	山が減れば海も減びるとの考えに立ち、森との共生を提唱。千年の歴史に感謝し、豊かな自然をそのまま次世代に引き継いでいくことを目的として活動。四季の美しい森林や里山が子どもたちの情操教育の場ともなり、地域の原風景として受け継がれることを目指す。			
取組分野内容	農林業を通じた里山や草地の利用(管理)の維持・活性化	該当なし		
	バイオマスなど新たな資源としての利用	<p>【対象となる資源】 樹木、竹、草</p> <p>社寺林(鎮守の森)とその周辺の山林での間伐や枝打ちによって得られるナラ・クヌギ・雑木等の再利用を推進している。下刈りで得られるシノや竹を利用した生活文化を現在まで継承している。ナラ・クヌギはしいたけ栽培、雑木はナメコ・平たけ・くりたけの原木に利用する。竹はくねや棚作りや竹細工:シノは菊やあさがおの支柱用として利用する。木の葉はたい肥に、枯松は地域の伝統行事のたいまつ材料となる。その他は炭焼き(伏せ焼き)の炭材として利用(観賞炭を作る)し、市民に提供している。</p>		
	環境教育や自然体験、エコツアーの場としての利用	自然観察会	野鳥観察会、植物調査	
		環境教育・学習活動	総合学習の場として開放。森林、歴史環境についての学習	
		里地里山体験・環境保全	炭焼き体験を通しての環境教育と森林保全	
		農林業体験活動	田んぼの学校(谷津田を荒らさないよう、休耕田の再利用や減農薬化学肥料の農業に取り組む)、森の学校の開設、キノコ栽培、親子学習	
		エコツアー	年に1~2回エコ旅行を行なって広く自然を学ぶ	
		その他	谷川の源流探検	
	野生動植物やその生息地の保全・管理	農薬を使用しない米作り、空中散布を断っている。化学肥料をなるべく使用しない農業に取り組む(畑は完全無農薬)		
	地域の良好な景観の保全・修復	歴史的な鎮守の森を守るための周辺の里地里山の保全活動に力を入れる。鎮守の森周辺の田畑を荒らさない。巨木を保護するための森の整備。休耕田の再利用と山林荒地の除草下刈りを地域住民と行なう。		
里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対象	生活行事	【文化財指定】 なし	
		資源利用技術		
		その他		
	どんど焼きを毎年行っている(里山や荒地の下刈りで得たカヤやシノ、竹林から切り出した竹材を集めて正月飾りなどを焼く行事)			
連携・協働	不明			



撮影時期：H20年 9月  
田んぼの学校での稲刈り



撮影時期：H20年 11月  
県「元気な森林づくり活動支援事業」による下刈り(シノ刈り)

景観としての  
利用・評価

- ・観光パンフレット等に写真が使用されている
- ・風景探勝や撮影の来訪者が多い。
- ・テレビドラマ「砂時計」のロケに利用(ロケ撮影の申し込みは多いが、環境維持優先で対応)。

取組の特徴

地域ボランティアによって、自然と人のつながりや循環を意識した里地里山保全の活動が展開されている。

地域のシンボルでもある歴史的鎮守の森を守るために「千年の森の会」が結成され、周辺の里地里山の保全活動を実施。

単に保護するのではなく、米作り体験や、間伐材をキノコ栽培や松明、遊具の材料などに利用することを通して、楽しみながら活動を行うとともに、すべてのいのちを大切に作る心を育て、稲作等に残る古くからの日本の文化などを知るよすがとしている。

【参照資料】

里山研究会ニューズレター第12号(1996年11月10日発行)

常陽新聞社HP(2008年9月27日記事)

五所駒瀧神社HP(<http://www5d.biglobe.ne.jp/~koma1000/>)

砂時計ファンサイト([http://www.nurs.or.jp/~sho/sunadokei/loca\\_goshokomagatakijinja.shtml](http://www.nurs.or.jp/~sho/sunadokei/loca_goshokomagatakijinja.shtml))